

＜2022年3月期第2四半期 決算説明会 主な質疑応答＞

日時 : 2021年11月4日(木) 13:00~14:00

出席者 : 取締役社長 貸谷 伊知郎

取締役CSO 富永 浩史

取締役CFO 岩本 秀之

Q. 金属本部の業績について、ラップ益の影響、市況上昇効果は2Q実績でどのくらいか？
また今後の見立てについても教えてほしい。

A. 鋼材のラップ益は影響小さくなく、市況品で利益が出ており、スクラップ、PGM、アルミ、鋼材といった順。下期の金属市況見立ては、スクラップは上期と同水準、アルミも高止まりでスプレッドもとれている。ロジウム、パラジウムは下がってきており、今までのような利益は出ないものの、損を被るような値決めにはなっていない。鋼材については在庫が多いため、市況が下がればいくらかラップ損が出てくる可能性はある。

Q. トヨタ生産台数の見立てに関して、3Qでの生産台数調整(減産)のインパクトと足元の状況、また来年に向けての半導体不足や挽回生産に対する考え方を教えてほしい。

A. トヨタの生産台数見込みについては当社の言及するところではないことをご理解頂きたい。生産と業績の連動については、材料供給と生産とでタイムラグが発生する。商社としては原料・素材の供給の動きが8月、9月まで良かった一方、部品メーカーなどは2Qはあまり良くなかったようである。逆に10月、11月の内示と実際の引きを見ると、足元は引きが下がっており、部品メーカーや一次サプライヤーでの中間在庫の積みあげにより、原料、素材の引きが減ることが予想される。このタイムラグのネガティブインパクトは3Qから出てくるものとみており、業績予想でも保守的に見ている。

Q. 来期に向けて世界景況の見立てと、御社の業績予想について教えて欲しい。

A. 世界景況、GDP成長率は今期もともと6%としていたものを0.1%下方修正し、5.9%で見ている。来年は4.9%の見立てであり、今期から1%ダウン。当社としては、今回、当初計画1,500億円を1,900億円に上方修正したが、これは様々なビジネスが伸長したことと、過去には出ていた類の特損は今では殆どなく、バランスシートをきれいにしてきたことが、奏功していると考える。中期の定量目標については、来年5月の新中期経営計画で公表するが、一つステージが上がったと考えている。

Q. 配当について、今期修正予想は年間 140 円。御社は実額で配当を上げていく傾向が強いので、来期業績に対してもそれなりに自信を持っているというメッセージと受け止めた。当期の一過性損益を加味すると、実力値は 1,700 億円程度とみるが、来期業績は実力値で 1,900 億円かそれ以上で見ているか？

A. 配当方針については、25%以上は維持しつつ、配当の実額を増額していく方針に変わりはない。今期の予想が実現すれば 12 期連続増配となる。来期のことはまだ申し上げられないが、今後も可能な限り増配を継続していきたい。

Q. カーボンニュートラルについて、1.6 兆円の投資額についてアイテム別に時間軸で教えてほしい。例えば、直近で出てくるものを教えてほしい。

A. 直近では、既に色々な事業機会が出てきている再エネ・エネマネワーキンググループが金額的にも案件的にも多い。2 番目として、先に北米電池事業を公表したように、バッテリーワーキンググループで早急に対応すべき案件がいくつか出ており、これら 2 つが先行すると考えている。資源循環 3R ワーキンググループについては、世界各地で環境に対する意識が高まる中、当社は 1970 年代から取り組んでおり、ノウハウを生かして新興国でもビジネスを立ち上げていきたい。時間軸が少し先になるのが水素・代替燃料ワーキンググループと Economy of Life ワーキンググループ。Economy of Life ワーキンググループは 1 つ 1 つの投資金額が小さいので数を着実に積み上げていきたい。

Q. 自動車販売について、台数は横ばいだが、2Q 業績が良くなっているのはなぜか？また、業績予想につき、地域により傾向は異なるが、下期が保守的に見える。どう想定しているのか？

A. 2Q は玉不足の影響はまだ大きく出ておらず、一方で価格の影響は出ているため増益。下期からは玉不足が問題になる懸念あり。アフリカとその他の地域で考えると、アフリカは上期にペントアップの需要があったため、下期は計画通りと予想。その他の地域は玉不足が顕在化すると見ている。

Q. 配当の実額は当初予想よりも上がっているが、配当性向は下がっている。一過性損益を考慮したとも考えるが、配当性向に関して何か議論をされたか？

A. 一過性損益と配当はリンクさせていない。今回の決定は中間期の 70 円であり、下期の 70 円はあくまでも予想。配当性向 25%という下限と増配を続けるという方針の中で、下期に向けて業績が上向けば更に増配を検討する。

Q. 下期に化エレの業績が下がる主な原因は？

A. 上期の業績が強かった。化学品部門はナフサ価格の上昇局面で業績が良くなる一方で、事後的に取引先との価格調整が見込まれるため、上期の傾向が下期そのままというわけではない。半導体市況については、不足しているものと余っているものが斑になっている。車載用のパワー半導体やアナログ系のマイコンは不足している一方で、ネットワークや画像系の半導体は過剰になっていると見ている。そのため、下期にかけて、一部半導体の供給過剰による価格調整が起ころうと保守的に予想している。

Q. ユーラスの上期進捗と下期見立てを教えて欲しい。設備投資の継続による減価償却費負担はどうか？

A. ユーラスの今期業績に関しては、計画比で上振れているが、前年同期では、開発費が先行して出ている分、ほぼ横ばいか、やや低い程度。ヨーロッパでは、北部の風況が悪いが、イタリア・スペインといった南部は好調に推移しており、その影響が持分法投資損益でプラスに出ている。日本国内は順調で、前年同期並み。減価償却費負担について、当社が投資している案件については、今のところFITで固定されており、稼働すれば想定している利益は出てくるので、償却負担だけが多く出るというわけではない。

以上